

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成 16 年度にすべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校園長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。一方、平成 22 年度より導入を進めているコミュニティ・スクールにおいては、令和2年度にはすべての小・中学校で導入され、学校評議員制度の活用に合わせて学校運営協議会を設置し、学校運営について地域とともに考え歩む取組を進めています。

学校評価に関しては、平成 19 年 6 月の学校教育法、同年 10 月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられています。このことを受けて、各校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするともに、明らかとなった課題についての改善を図っています。

ここに、令和2年度の各校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各校園では、この報告書を参考にするとともに、校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

令和3年 7月  
奈良市教育委員会

- 令和2年度は61名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。  
評議員の置かれている学校園実数

幼稚園16園 小学校0校、中学校0校、小中学校0校、高等学校1校

〔奈良市立学校数：幼稚園16園 小学校43校、 中学校21校、 高等学校1校〕

## 内容

### 1. 学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】 .....	2
【設置されている学校評議員数】 .....	2
【学校評議員の再任の割合】 .....	3
【校園長が学校評議員に求めた意見例】 〔意見を求めた学校園数の割合〕 .....	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】 .....	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】 .....	4

### 2. 学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】 .....	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】 .....	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】 .....	5
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】 .....	6
【学校関係者評価の実施について】 .....	7

### 3. 学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】 .....	8
【学校評価をすすめる上での課題】 .....	9
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】 .....	10
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】 .....	11

### 4. 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】 .....	12
--	----

## 1. 学校評議員制度の活用

### 【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
P T A関係	22人	36%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	10人	16%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	7人	12%	
学校支援	1人	2%	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	3人	5%	人権教育協議会、安全推進協議会など
教職経験者	3人	5%	
地域活動関係	9人	15%	
社会福祉協議会関係	3人	5%	
公民館・施設長関係	0人	0%	
各種協議会	1人	2%	
一般	2人	2%	
万年青年	0人	0%	

### 【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5人	1園	0校	0校	0校	1校	2校園
4人	6園	0校	0校	0校	0校	6校園
3人	9園	0校	0校	0校	0校	9校園
2人	0園	0校	0校	0校	0校	0校園
合計(校園数)	16園	0校	0校	0校	1校	17校園
総人数	56名	0名	0名	0名	5名	61名



## 【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	18人	0人	0人	0人	5人	23人
割合(%)	32%	0%	0%	0%	100%	38%

## 【校園長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校園数の割合〕

### 「地域の連携・協力に関すること」

〔全体 87%〕

- ◆コロナ禍での地域との連携の在り方について
- ◆行事等、園運営への関わりについて
- ◆地域とのふれあい事業等について
- ◆地域の見守りについて
- ◆地域行事、会議への参加について
- ◆連携強化の方法等のあり方について
- ◆地域の方の保育参加について

### 「学校に対する評価に関すること」

〔全体 84%〕

- ◆保護者アンケート結果と課題に対する改善点について
- ◆園経営・園運営の評価について
- ◆自己評価・学校関係者評価について
- ◆保護者の園アンケート結果の報告について
- ◆園行事、子どもの様子について

### 「幼児児童生徒の安全に関すること」

〔全体 84%〕

- ◆感染症対策について
- ◆災害時の園の対応と体制づくりについて
- ◆避難訓練、衛生管理について
- ◆校区安全パトロール、園安全管理について
- ◆防災対策、防犯対策について

### 「学校の目標としていることに関すること」

〔全体 81%〕

- ◆めざす子ども像・教育ビジョンについて
- ◆園目標と取組について
- ◆本年度の園ビジョンへの意見について
- ◆教育目標や教育方針についての理解について

以下、「教育課程・教育内容に関すること」〔全体 78%〕、「学校施設・設備に関すること」〔全体:69%〕、「生徒指導に関すること」〔全体:48%〕と続いています。

### 【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	52%	57%	74%	73%	65%	59%	<b>85%</b>
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	45%	36%	25%	27%	35%	41%	<b>15%</b>

### 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ◆子どもたちの「考える力」をつけるという点について、個々の目標設定の導き方をご助言いただき、探究の時間の持ち方を再検討した。
- ◆園内の清掃や栽培活動など一緒に参加してもらっている。
- ◆地域の会合や会議に参加し子どもたちの様子を伝えた。
- ◆次年度は、地域の回覧板に園の広報を回して頂く。
- ◆学校だよりやホームページ等による教育活動の積極的な発信。
- ◆通学路における危険箇所マップの配布。
- ◆ならまち探検のコースや内容の変更などの教育内容に地域の教育力を生かしている。
- ◆子どもと共に様々な活動を行ってもらえる地域の方や次期評議員選出などについて助言を頂く。
- ◆園外保育に出かける回数を増やした。
- ◆教育活動報告会を開催して教育活動について共有した。
- ◆園独自で行う預かり保育「見守り保育」を継続した。
- ◆作品展などを通しての保育の取組などの評価を職員と共有しながら次の保育・教育へつなげた。

各学校で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善のポイントとなります。PDCAサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや家庭、地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、有効な方法となります。

## 2. 学校評価の実施

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H25年 度	H26年 度	H27年 度	H28年 度	H29年 度	H30年 度	R1年 度	R2年 度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	87%	91%	86%	82%	80%	84%	78%	<b>90%</b>
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	91%	96%	88%	89%	94%	88%	93%	<b>94%</b>

### 【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	86%	88%	85%	<b>86%</b>
学校評価関係教職員で行っている。	14%	7%	10%	<b>10%</b>
主に担当者が行っている。	0%	5%	5%	<b>4%</b>

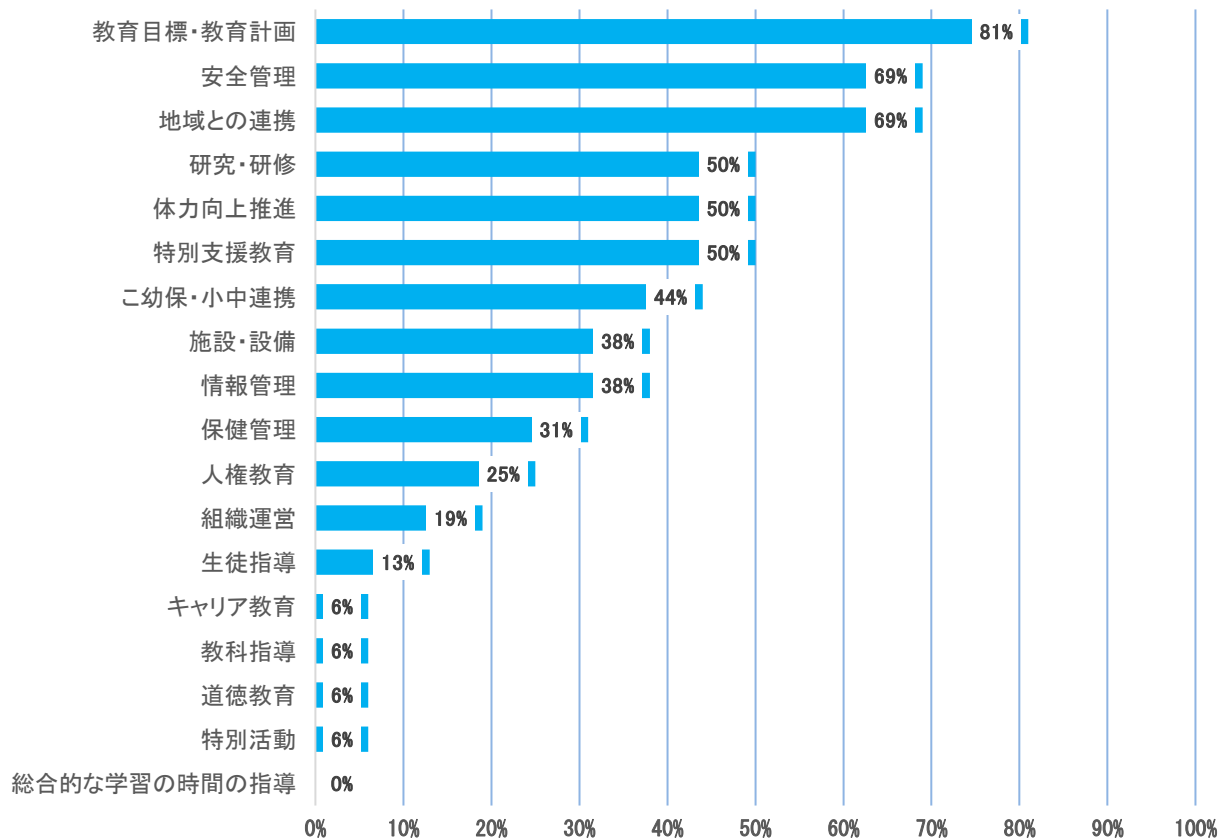
### 【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
年度末に1回実施	43%	26%	15%	<b>28%</b>
年度末以外に1回実施	57%	74%	80%	<b>70%</b>
年2回（1学期末、2学期末）	0%	0%	5%	<b>2%</b>
その他（行事ごと等）	0%	0%	0%	<b>0%</b>

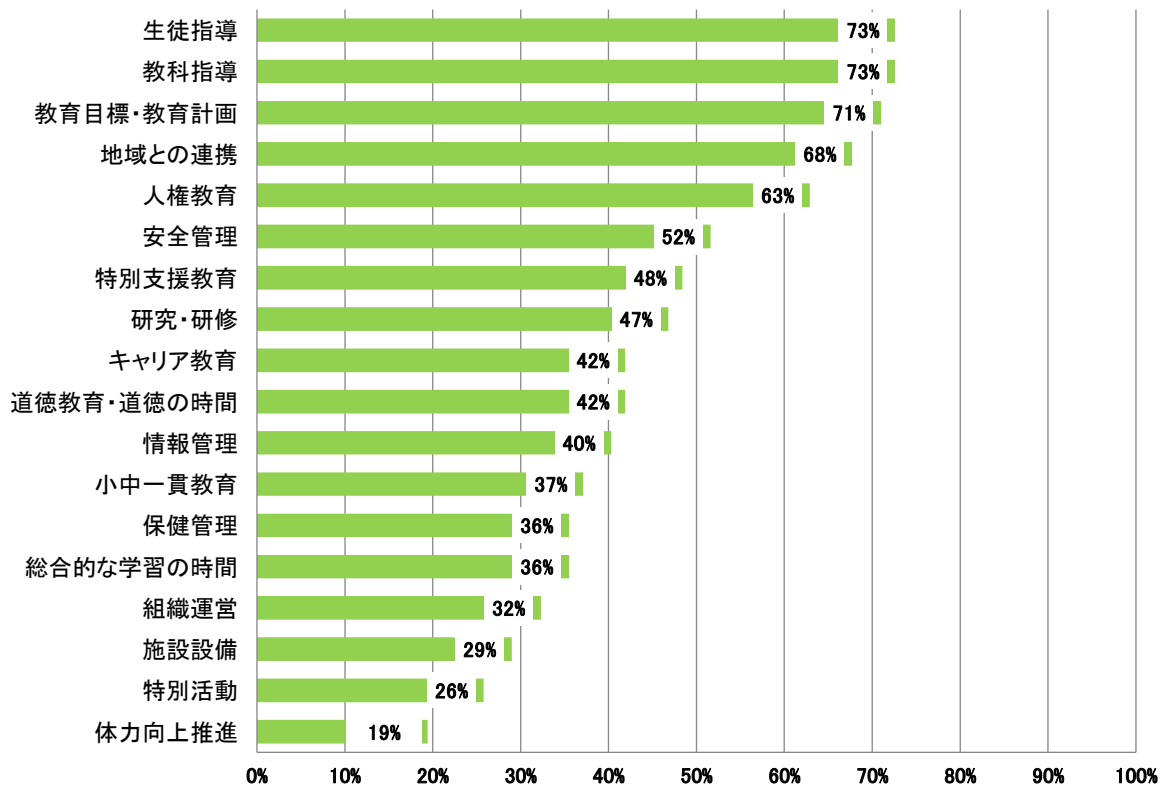


【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

幼稚園



小学校・中学校・小中学校・高等学校



【学校関係者評価の実施について】

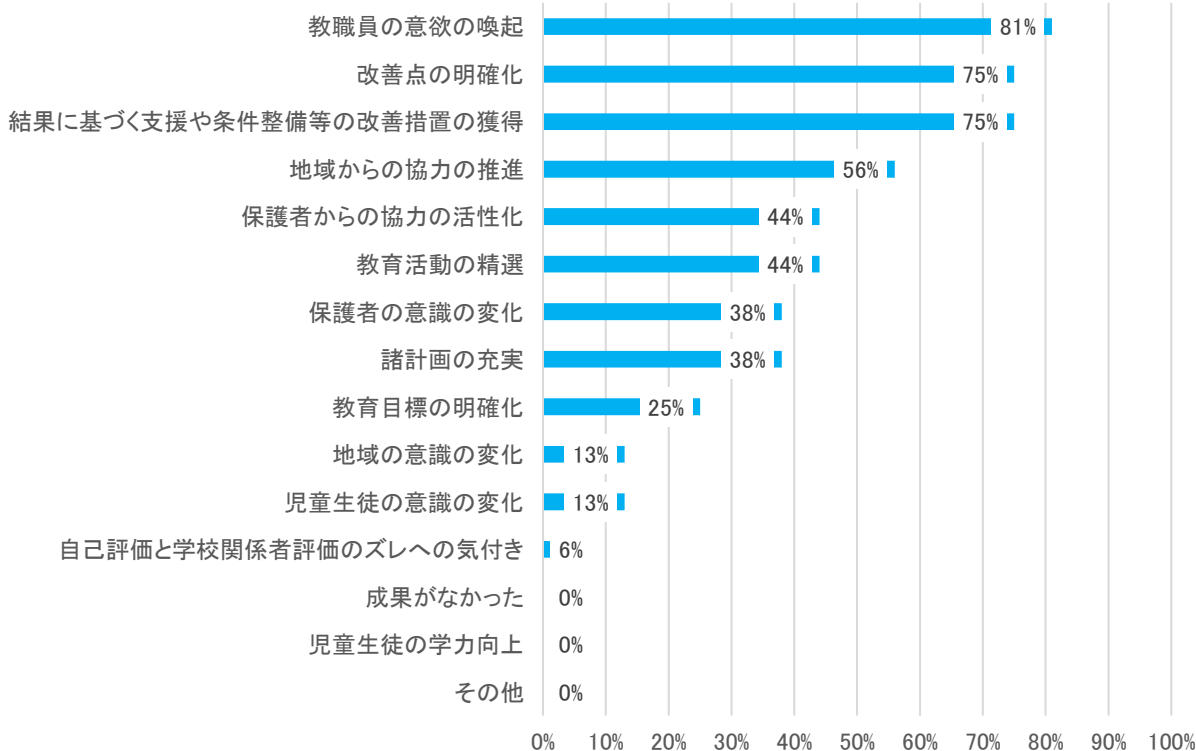
	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	56%	78%	68%	<b>67%</b>
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	81%	78%	50%	<b>60%</b>
評価はアンケート形式で回答を求めている。	75%	33%	27%	<b>45%</b>
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	6%	58%	46%	<b>37%</b>



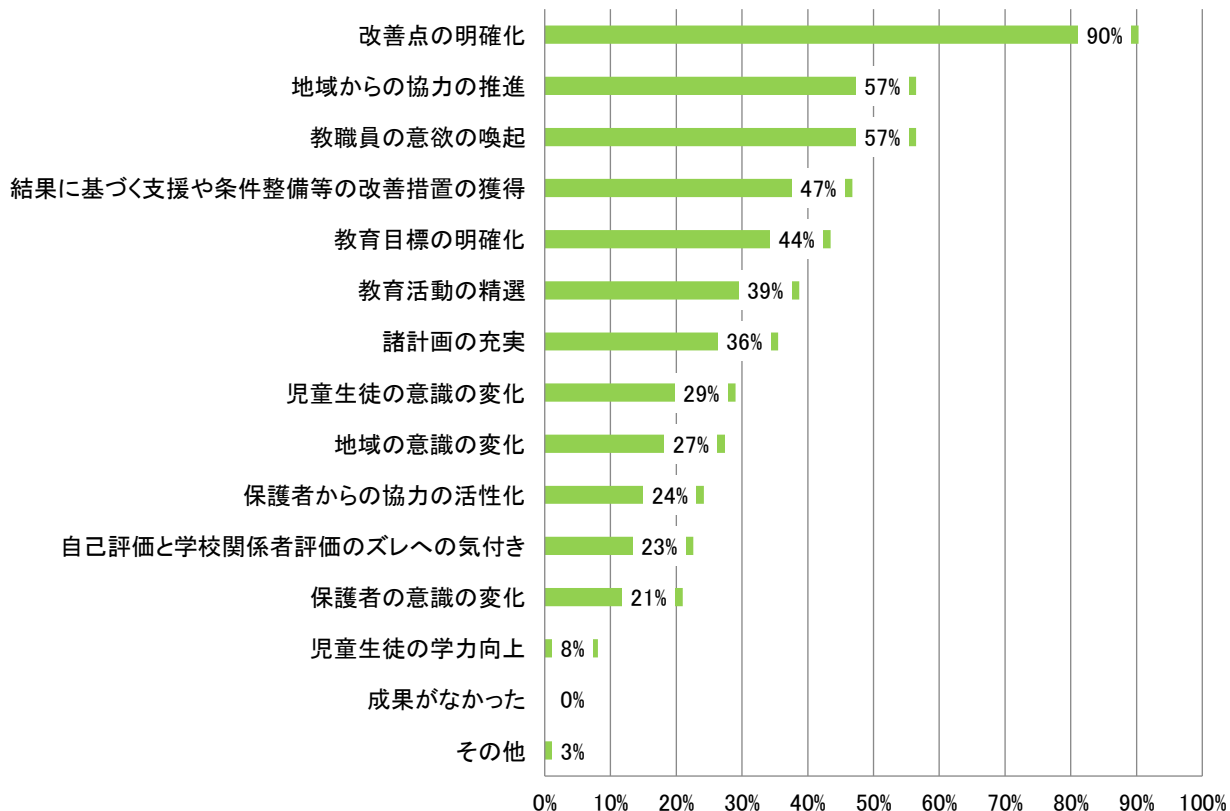
### 3. 学校評価の成果と課題

#### 【学校評価を行ったことで得られた成果】

##### 幼稚園

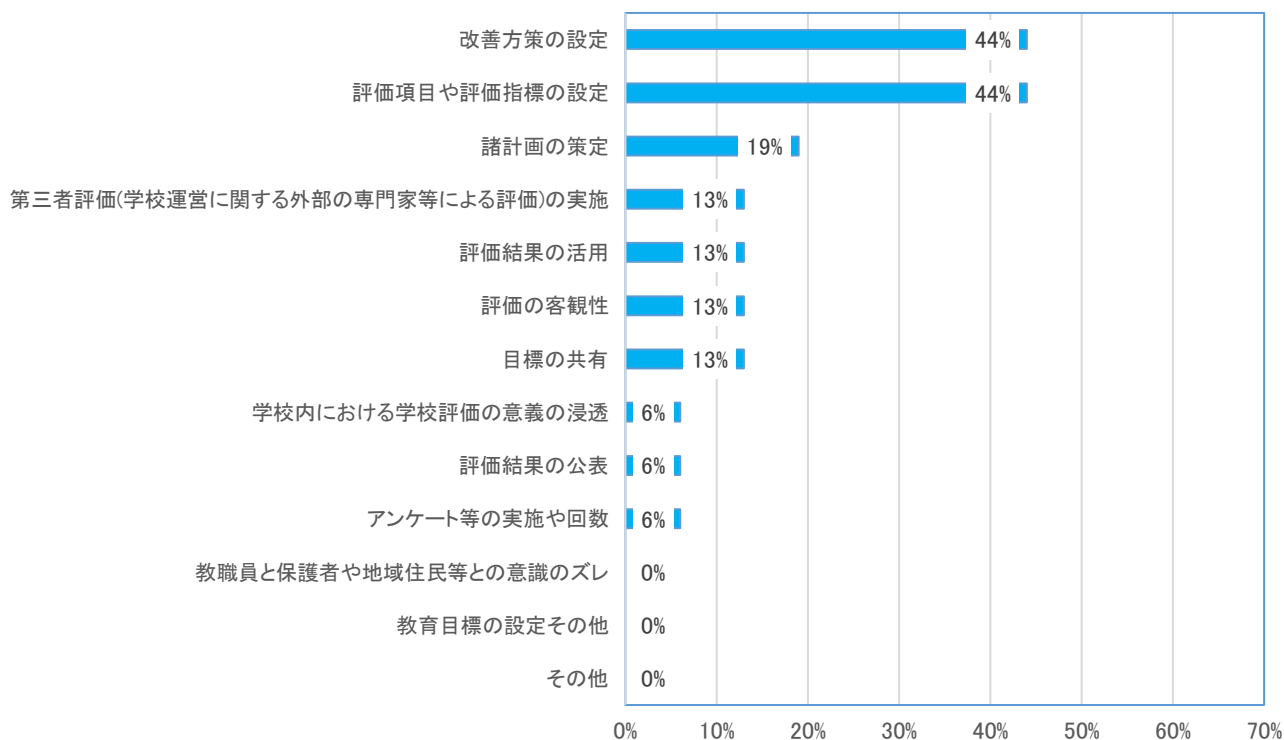


##### 小学校・中学校・小中学校・高等学校

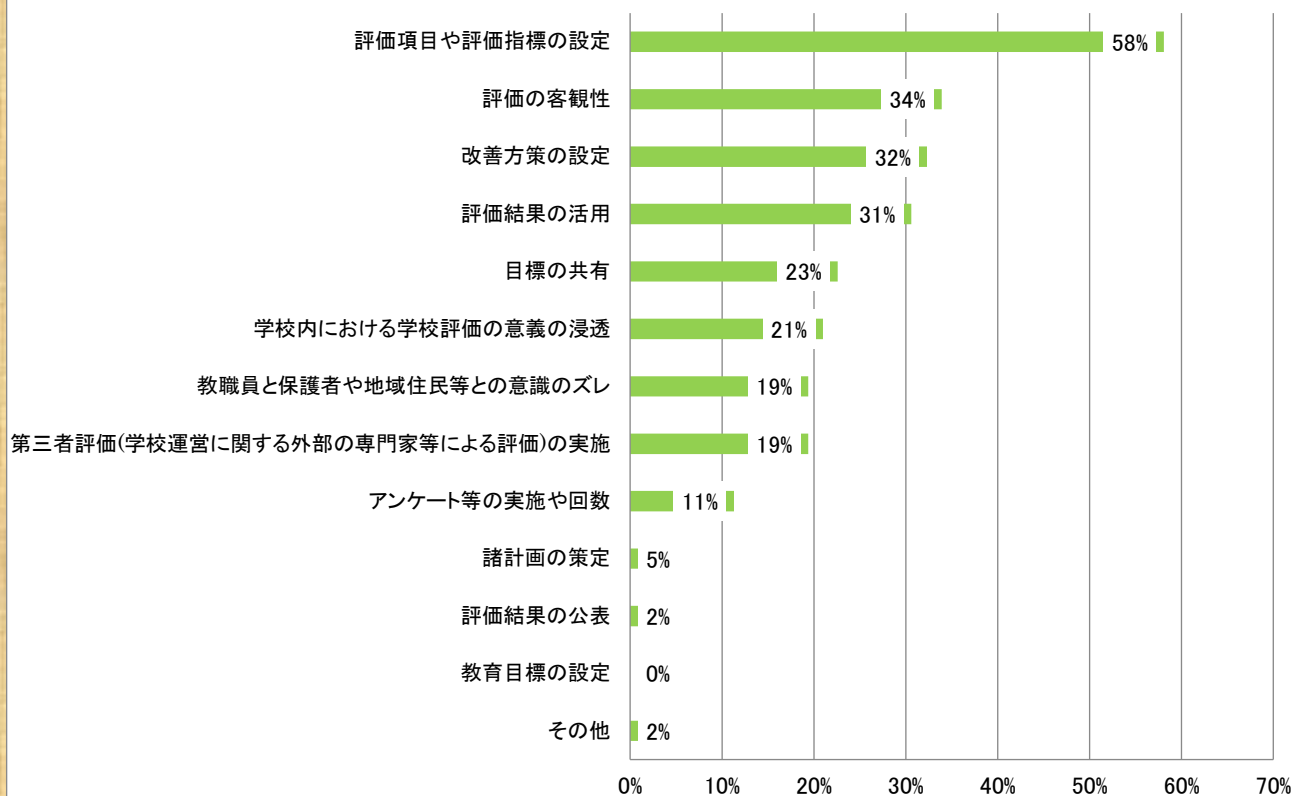


## 【学校評価をすすめる上での課題】

### 幼稚園

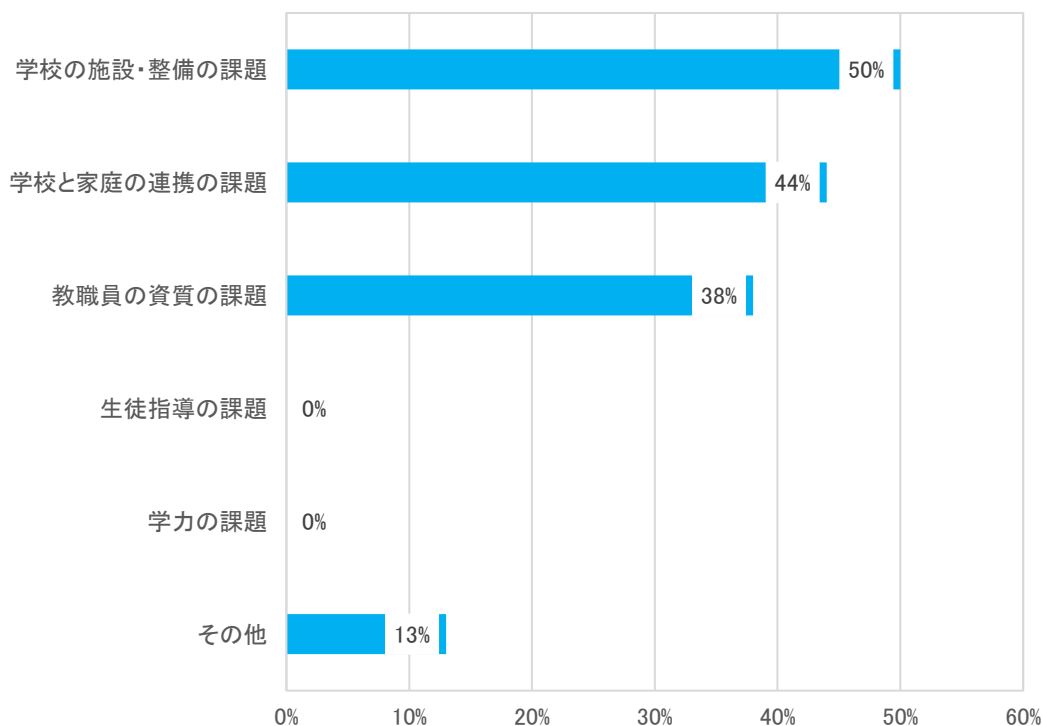


### 小学校・中学校・小中学校・高等学校

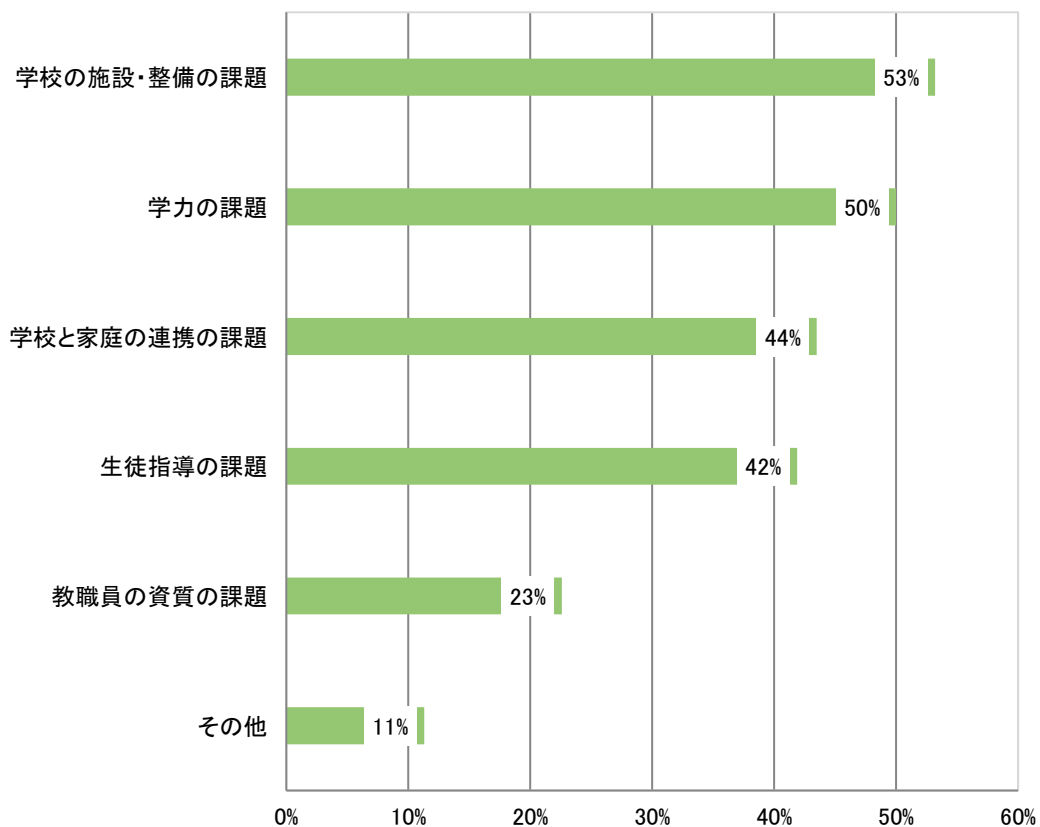


## 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】

### 幼稚園



### 小学校・中学校・小中学校・高等学校





## 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】

### 〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・ICT等を活用した情報の共有と発信。
- ・HPや学校通信等の効果的活用。
- ・各学年で「家庭学習の手引き」を作成し、家庭訪問の際に丁寧に保護者に説明を行う。
- ・家庭との連絡を密にし、教育方針について理解を求めていく。
- ・PTAや地域とも連携し、各家庭と子育てについての意識啓発を進める。
- ・子どものよりよい成長のため、保護者との対応を丁寧に行っていく。また、外部機関とも連携を図り、保護者を支援していく。
- ・コロナ禍により時間的・機会的な制限のため、オンラインを活用した連携を進める。
- ・HP、メール連絡網の有効活用。

### 〔学力に関すること〕

- ・読書活動の充実。
- ・家庭学習の定着。
- ・GIGAスクール構想による個別最適化。
- ・タブレットの有効活用による学び合う授業の推進。
- ・授業改善のため、授業研究を行う。
- ・指導力向上に向けて教職員の意識改革を図る。
- ・教職員の授業力を高める研修の実施。
- ・学習意欲を高めるフィードバックの活用。
- ・発展的な学力の前に基礎学力の向上を目指すような取組の設定。
- ・大学教授を招いた、校内研修の継続。
- ・学びの跡が分かるように、板書計画の改善やノートの使い方の指導を行う。また、タブレットを有効活用していく。

### 〔生徒指導に関すること〕

- ・Q-U(児童生徒の学級での居場所や人間関係についてのアンケート調査)の活用。
- ・関係機関との連携。
- ・教育相談活動の充実。
- ・保護者との連携の強化。
- ・家庭・地域との連携による自己有用感の醸成。
- ・挨拶運動と教職員からの声掛けや挨拶。
- ・問題点を教職員で共有し、改善策を組織として取り組んでいく。
- ・組織的に対応するために、報告会と研修会を定期的に行っている。
- ・全教職員による全児童の見守り、声かけ、情報共有の強化。
- ・教職員の共通理解による指導の徹底。
- ・不登校の児童生徒への多様な支援。
- ・特別支援に関する小中連携強化。
- ・早期対応となるように、また、より丁寧に対応できるよう、研修を増やす。

### 〔施設・整備に関すること〕

- ・学校施設の環境整備。
- ・来年度予算で、教育委員会と相談しながら施設の改善整備を進めていく。
- ・点検作業の日常的な実施と、安全確保のための素早い補修と計画的な修繕に努める。
- ・地域や保護者の理解を得て、環境整備を計画的に行えるよう協力体制を整えていく。
- ・施設や設備を計画的に管理し、予算を有効に使うとともに、関係機関に協力を求めていく。
- ・さまざまな工夫で可能な限り安全な環境づくりに努めているが、必要なものについては要望を上げていく。
- ・定期的な安全点検の実施と早期の修繕に努める。

## 4. 学校評価と学校ビジョン

### 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・教科指導をはじめ、指導力向上に向けた定量的数値の設定。
- ・GIGA スクール構想に基づく教育環境の変化、進化に対応していくことや、教科担任制の研究などを進めていく必要がある。
- ・新しい学力観に基づいた力をつけるための基礎学力の向上について、研修や研究をしていくことを重点目標としてあげていく。
- ・教職員の資質、授業力をより向上させるため、ミドルリーダーの養成を来年の重点課題とする。
- ・チームとして組織力のさらなる強化を目指し、若手教員養成の雰囲気醸成し、OJT 活用化を推進する。
- ・タブレット端末を活用した授業づくりや学校からの情報発信。
- ・学校ビジョンの具体的な方策を示すことで、ビジョンの共有化を深め、学校・家庭・地域が一体となって、取り組んでいけるようにしたい。
- ・子どもたち一人一人の教育的ニーズを大切にするために、教員を適材適所に配置するとともに、教職員研修を充実させ、教育力の向上を図る。
- ・保護者や地域との連携や、小中の連携について、その意義を教職員とともに確認し、積極的に進めていく。
- ・来年度も続くと思われるコロナ禍の下、保護者と学校とがつながるための方法を検討したい。
- ・コロナ禍における、保護者や地域との連携・協力体制の持ち方。
- ・地域と協働した学習支援の効果的な継続による学習意欲と自尊感情の向上。
- ・「小中一貫教育」校区の小学校と生活、学習、人権の基盤となる部分での統一した連携を深める。
- ・Q-U 分析を共有し、自己有用感の向上による生き生きとした学級づくり。
- ・授業改善システムの充実と教員の意識向上。
- ・児童・生徒の自尊心を高める取組の工夫を行う。
- ・見守りと適切な声かけによる、生徒の心に寄り添い、個に応じたきめ細やかな指導体制の強化。
- ・学力について、新しい学力観や評価の観点から向上させることを、学校、家庭、地域と連携して行うことを強調し、実行する。
- ・学校教育目標や学校の日々の様子を保護者や地域の方々により周知するため、学校だよりやホームページを用いた広報を今後も続けていく。
- ・教職員がさらにスキルアップできるよう、各自が自己研鑽を深め、授業研究等を行うことで実践力を高めていけるような環境を整えていきたい。